

諸家系譜

位

津田

庫文官政太		和	
二三九	三四九	冊	門
冊	架	函	號

共二百廿五内

庫文閣内		和	
五〇	三三〇	冊	書
一七	二二五	架	類

共八十五

内閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225(154)
函號	156 23



未
三月朔日土

系籍

平新

新系原

つ

平氏

五番 ○ 堀田長氣

西丸

佛土性原番次

津田山城守

平姓 津田

織田權左衛門親真津田之祖十七代之後

流織田伴誓与信安長男不和守

信武養子

信之致 仇

信之致 仇

信之致 仇

信之致 仇

信之致 仇

○一英

本國織系 津田定信

生國不知 初名年 後名 隱居仕世信

母 斯波友永少輔 統銀也

和手織平之傳也

和手用世信信系也

古德流係

大敵流係

友有流係

津田自見仕定信の傳實者生男

由平子親重當時交代多合生男

巨敵家初信男生男也右信の尉右系

別如慈願圖書遺正作... 母方大教文織田大和守信氏表... 旨矣仍仕... 實父國正

元和元乙卯年... 号林院... 王...

吉津院... 子... 河由緒...

吉津院... 河...

吉津院... 河...

吉津院... 河...

吉津院... 河...

吉津院... 河... 山...

公藏 日 仰上 誠後 皇 應 延 永 公

寬永三十二年八月廿七日 仰上 誠後 皇 應 延 永 公

石 賜 同 在 在 年 二 月 四 日 百 石 加 賜 是

日 午 奉 永 年 二 月 四 日 百 石 加 賜 是

慶 有 院 御 沖 代 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

刑 部 相 宗 中 御 守 右 近 衛 守 役 長 延 永 公 月

新 仰 守 度 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

慶 有 院 御 每 年 沖 代 金 五 百 石 加 賜 是 延 永 公

延 永 三 十 年 二 月 廿 五 日 百 石 加 賜 是

寬 文 四 年 辰 年 三 月 廿 五 日 百 石 加 賜 是

延 永 三 十 年 二 月 廿 五 日 百 石 加 賜 是

大 藏 院 御 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

成 子 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

慶 有 院 御 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

寬 文 十 二 年 乙 未 年 三 月 廿 五 日 百 石 加 賜 是

入 之 仰 守 新 規 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

以 後 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

沖 遠 魯 之 由 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

判 長 在 仕 御 沖 字 役 長 延 永 公 月

延 永 七 己 未 年 七 月 廿 五 日 百 石 加 賜 是

将月记方戶死清平長徳院上葬
号心嶺院因休悲情

可敬

津田自記

知外記

母

秋田與多坊源末也

妻

二雲也

兼意之甲午年八月日知江生
寛文七丁未年四月十九日相平納續重
長徳院書夕所城日知方古之南所
願守字在信也願日記也

表有院日古也... 津田因上至子年

上月十四日法書院若法若人云仰祈新院

中祈家水河多自補也願仕也

常憲院卿冲代法書院若津田常日修表

貞亨子之西宮年 九月五日亥子年午多

右法書長徳院也并

法房

津田左門

厚厚成力之紙後方方致仕退志仕也
物世因儒富成者長徳院一英妹
物師也近位成後書年長徳院

子多清房方從勇之傳多而壯少於家威
順和母後園田四右左誠人親養受下
津田五十四所

母右自
北河邊月諸親類義絶仕

學
母右自
松平誠後寺部
中根長信(三補書)

信成
津田定右衛門初日記
原右仕書

母
家女
小室信從母室屋上
秋田之信屋(三補書)

天和二壬戌年八月廿九日
常憲院御御代

貞方子之丙寅年七月十日父内元記武中至
小室信從差取之存子少配
元禄六年乙酉年十一月廿北條安房守
子配之成同八乙亥年二月廿松平主計
室水元甲申年九月廿津奉院出書
播磨守信右 出書入御代
同之丙寅年十一月廿西左津附
御代御器相初

同六己丑年三月廿五日
浙中舟出海相動中同年四月廿日浦
北後出船正改
官事保己亥年八月十九日船業中斷也
出正改口正亥年二月八日海長橋岸
終正改同九甲辰年二月十八日同夏
越第正改同十月廿四日甲辰年八月廿日
戶田正改正改
同十九甲寅年十月廿二日澆川橋岸
終正改 元又元而辰年八月廿日官保
在系元終正改

延亨正改辰年三月廿五日終正改
正改
室曆二正申年三月十九日花房近岸終
正改
同三癸酉年二月十二日通小善信入
正改
正改
金正改
正改
同三月廿四日甲辰年四月
九日正改
同七月廿五日甲辰年四月
同七月廿五日甲辰年四月

源平仲子亂 宣和元年二月十日 源賴朝之通
隱者之仲子也
明和四年九月廿四日 宣和元年十一月
後平基德院 宣和元年
号 良来院竹岩通布

信矣

津田吉之郎

母

家母

妻

一位 源平仲子
津田吉之郎 宣和元年

文保六年八月廿九日 宣和元年八月廿九日

正德元年 宣和元年二月十日

文照院 源平仲子

宣和元年八月廿九日 宣和元年八月廿九日

入心 源平仲子 宣和元年八月廿九日

三浦玄美 源平仲子

号 源平仲子 宣和元年八月廿九日

号 源平仲子 宣和元年八月廿九日

早世

津田吉之郎

东

女子

母

家母

早世

母

有尚

養母

在信(聖)後(經)身(以)

平長(養)道(德)書

平長(養)道(德)書
信(成)養(長)女(仕)在(信)聖(後)書(及)書(柄)身(以)系(之)反
平(長)道(忠)通(政)原
新(在)場(之)家(之)方(信)嫁(中)以(承)而(之)書(死)仕(以)身
由(人)父(平)長(養)女(長)色(也)仕(平)長(養)道(德)通(信)
嫁(中)以(承)而(之)書(死)仕(以)身
知 完(濟)書(院)若(白)衣(僧)也
吉(田)水(成)美(書)

女子

知

後

清(海)國(初)後(位)

阿(部)百(武)正(武)書

母

十(若)廣(從)母(弟)書(院)也(死)

秋(田)三(武)正(武)書

初(在)由(武)水(信)嫁(少)以(承)而(之)書(死)仕(以)身
阿(部)百(武)正(武)書(也)也(死)

女子

母

家母

在(由)武(水)元(文)二(丁)巳(年)上(月)五(日)生(也)

宣(延)二(己)巳(年)上(月)八(日)生(也)

信(成)養(長) 御(次)江(左)門(四)等(末)年(三)月(六)日

清(中)三(郎)三(郎)書

宝曆二年己未八月十日

博信院御書 同八月十日

後明院御書 同八月十日

高田 是書院御延生御書

同八月十日 老女上書

明和六年八月十日 御書

御書 御書 御書

安永二年八月十日 御書

天明年九月十日

後明院御書 同八月十日

運光院 御書

同八月十日 運光院 御書

安永二年八月十日 御書

後明院御書 御書

高田 御書

津田内面 御書

信之

母 家母

先妻 小信十外孫 御書

後妻 高田若後 御書

寛保九年八月廿一日
室曆七十五年二月廿五日
新税三百俵
又定名實
八月十八日
六月廿七日
同日
同日
同日

信院極 嘉傳
七月十日

御知推 長法
八月

後明院御 御知推
八月

御知推 御知推

明和元年
御知推
御知推
御知推
御知推

同八年申年七月亦言高氣牙額之通
阪市之屋舟家野野山城之山也
山城之取外山切赤音百後之信阪市
料之至和年信之度之信阪市以年
三月申之阪市之信所方國孫孫孫
高余年之少使至津納戶相和申山月
亦八月西之改在信之信山城之
于額之之申九百額之通之信也
宣和之三年 亥年三月日者伴山城之山到
宣和之三年 亥年三月日者伴山城之山到

利安仁信職之改在信也

初

一様用人

初山信之信也

初山信之信也

後

生駒信之信也

生駒信之信也

初山信之信也 義貴源之信也 義貴源之信也
仕之信也 信之信也 信之信也 信之信也
親信之信也 親信之信也 親信之信也 親信之信也
信之信也 信之信也 信之信也 信之信也

某

早世

津田孫也

大洲書

孝山英德寺經事記

小濱十郎左衛門輝隆母

母

宝曆二年己未二月廿一日生

同十二年四月廿一日死法親院

葬早野羽草光念林

某

早世

津田三右衛門

母

右衛門

宝曆十二年四月廿一日生

明和三年二月廿一日死早野羽草

光念院能山念院

二宮慈願

津田山崎子又修也子

信久

母

右衛門

又修也子

書

松平玄蕃次忠徳女

宝曆二年未年七月廿五日生

明和三年四月八日父早野羽草

惣願寺御子 同八年一月八日

孝養院御子

御子 御子 御子 御子 御子

宝永五年申年七月廿二日西乃中少将

新傳子清切米五百餘石云
因丁酉年十二月十日諸方吏云仰子傳子
改曰月十日官位傳統法乃自派
銀島代天心中上云

因八己亥年二月十四日

考萊院係 堯卿 立程云身因月先自派通
以法製新傳子三月十九日 清以核云
茲製製多清信性云
以年四月十八日中國清上性云 仰子
云明七丁未年二月十五日清近也云云
石使云製製云仰子八月廿七年七月

五二日父日向子願之通法云仰子家製
以法製上製製和年信多製及云仰子
因年十二月十日家製之清統清分自派
金島代天心中上云
寬政之三云 亥年六月十日新助出也
運光院係 清位解新云 茲製和相統
中製製製之通法云 仰子製製製製製
王後也製製云 仰子製製製製製製製
中云 因四壬子年二月十日百人經云
云仰子 因七乙卯年三月十日製製製

小重系也麻祥之孫繼之乃百連
石鐵中

利國

母 嘉女

清小性阻端
嘉女

安永三甲午年二月音寄合去并
榮以少利年安良之四姓故小

卷五

大朝之儀
母國

實之信之妹年松山橋之助長黃女
三仕嘉 明和五年甲午十月廿二日

心觀院御清河若年子相勳成康卷五也
仕清書院嘉女我若捷子能安長信所
以盈日解從事願在日十月時願之通
解但言御丹山右成德故

心觀院御嘉亮云後願之通別卷五也
若如院上江右仕

安永三甲午年九月廿六日充德也
安永及信之而嘉女小懸年及子懸後
三上安永七年庚午十二月日知雅德江卷五
日天日新紙御嘉女年安親文板山右信方口右安良

安永八己亥年二月廿二日信之卷上在

後明後信清延慶元年四月廿七日

天明八己申年二月十日和音角改在

安永改之三年二月八日

蓮光院標 清延元年別後身延

清延元年四月十四日

改名信清同四年九月十日

安永信清元年信清同五年二月十日

孝順院標在御後同年七月十日

清平元老女信清同年九月十日

敬信信清元年

若名信清元年信清同年

若名信清元年信清同年

女子

和音角改在

大津藩

小濱十郎信清同年

安永五年二月十日信之卷上在

和希五郎三子... 能但願之通... 仰牛
如緣少成... 病氣... 性... 將... 難... 志
神... 及... 方... 難... 後... 上... 門... 九... 壬... 辰... 年... 五月
十九日... 難... 通... 仕... 之後... 病... 氣... 性... 故... 以... 成... 以... 子
安... 水... 以... 己... 亥... 年... 七月... 以... 出... 所... 設... 官... 係... 是... 終
越... 願... 水... 神... 為... 子... 以... 忠... 明... 緣... 係... 願... 之... 通
安... 伊... 丹... 以... 己... 亥... 年... 三月... 以... 而... 婚... 之... 姻
相... 形... 也... 子... 以... 己... 亥... 年... 三月... 以... 而... 婚... 之... 姻
双方... 難... 後... 上... 出生... 子... 子... 門... 取
天... 明... 四... 甲... 辰... 年... 七月... 以... 而... 難... 緣... 係... 仕... 以

實... 及... 二... 原... 戌... 年... 三月... 十九日... 沖... 小... 性... 既... 後... 以... 防
若... 性... 也... 似... 真... 人... 原... 時... 災... 害... 子... 越... 願... 松... 系
東... 馬... 廣... 能... 下... 係... 似... 仕... 而... 後... 見... 山... 神... 之... 怨... 通
安... 伊... 丹... 以... 己... 亥... 年... 三月... 十九日... 沖... 小... 性... 既... 後... 以... 防

沖... 性... 既... 後... 以... 防
水... 井... 以... 己... 亥... 年... 三月... 十九日... 沖... 小... 性... 既... 後... 以... 防
珍... 山... 之... 原... 員... 美... 書

冊... 家... 母

安... 永... 六... 丁... 酉... 年... 四月... 十一日... 寄... 合... 目... 記
三... 年... 還... 越... 願... 久... 之... 水... 泉... 之... 所... 三... 年... 書... 上... 係

如

但願之通安仰才未既爾亦如也
月極傳成有之双方後之上
天明七年未年二月七日雜傳也
宣政七乙卯年十二月廿九日
信宿也然之那珍亦多庫貞美古
緣位仕而後見山師也願之通安
河内也

忠辰

書付多合

冊 右同

原中河也

唐範

天明元三年未年九月廿二日唐範求馬
也良卷良子也

冊 右同

藤田也

宣政三年未年八月十一日宣政合藤田也
唐範卷良子也

大所書

中坊河也唐範也

中坊編五布首上純書

也子

冊 右同

勝興

津田作儀

母 在國

兄 山崎守方 在國

弟 小瓶

竹本 忠信 在國 豐時 在國

妙子

母 在國

信實

母 在國

津田 信實 在國

天明六年壬午年七月廿四日 誕生

某

早世

津田 吉次郎

某子

母 在國

和年 吉次郎 在國 福女

某子

早世

母 在國

某子

母 在國


某子

母 在國

本之通也

高平名 在國統系 有願屋浦神田庄物事可
安房上院下院生國統系 以下各友在所屬河

宣致上己未年二月

津田山津守 

未三十七

平

系譜

平氏 □
八拾貳番 ○ 坊田豊年

津田好之丞

兼合

未三月廿八日
兼合行前

平姓

津田

大正九年相委天皇第十代清成皇代
津田權重親其子津田村生
清成親織田以仕為神皇長後織田氏
改子孫是利尾流高經從西邊親
古男十卷尾流國岩倉城主織田
大和守敏定仲又尾津田

此種之紋也

第之紋 仇 糸光中花菱

泉之紋 仇

聖紋 糸光中花菱

桓平天皇十二代

平相國

清盛

正位上皇在位 實白川帝之孫
皇孫人通去和元年三月廿九日
二月廿四日

重盛

正位少松尚右衛門左衛門
号津蓮後立治承三年八月朔
二月廿四日

資盛

少松新之位在中好 致承
元曆二年二月廿二日
没去右左衛門

親真

津田五位
法名光盛

親基

檢右衛門
没津田檢右衛門

親行

津田源右衛門

行彦

津田右衛門行彦尉

末原

津田三郎

後改名知三郎尉

長上賢

津田三郎

廣村

津田三郎

實昌

津田三郎

自稱藏田氏

常富

津田三郎

常晴

津田三郎

改名三郎尉

教彦

津田三郎

改名三郎尉

常任

津田三郎

勝久

津田三郎

改名三郎尉

久長

津田三郎

新定

三帝 藏田大和守
尾石山石合殿

本苗 尾石

定宗

飯尾 近江守

信定

藏田 深心寺

秀敏

七郎 尾石山石合殿

秀重

七郎 尾石山石合殿

慶長 四年 二月 廿九
法石山石合殿

泉

哲侍者 鬼門

右 鬼門 成 幸 号 月 日 出 相 知 家 長 成
飛 安 寺 住 威 仁 氏

秀政

作 三 秀 一 幸 老 年 在 舊 門 後 後 具 居

丹

性 武 水 寺 知

書

位 長 氏
尾 石 山 石 合 殿 一 卷 書 也
寶 文 水 寺 知

右表政儀天文十四年三月廿五日
之出生依之下岩合之儀國田信也
仕于十石之余之例也勤信也其
双信也其在共後年号月日也知
權源也其古也近相也二千石

河也其也其也其也其也其也其也
慶長五子年八月日也其也其也其也
國東也其也其也其也其也其也其也
仕國也其也其也其也其也其也其也

河也其也其也其也其也其也其也

河也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

古也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

此 呼出山帳に系經に在る中のみ
後継少か梅原氏に系する系部は
及可首一由因少許世出系部
御書化

大藏院御上清に御右に協板念侍あり

中上少海も因る系部を可有系
し 御書に上系部

上三系 御國に下系部あり少イ
少少に少の口 古系部に御書に
系部は上系部を少少の系部

御書に系經に在る中のみ一入可有

御書に御書に中上少海

御書に 上三系に 續く系部は御書
持し御書

御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に

御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に
御書に御書に御書に御書に

花園妙心寺中甚具院江蘇中
法名甚具院光岩道泉

采

洋書門

丹 姓氏不明

小出古和寺住

采

身助

丹 姓氏不明

仙友法心住

正重

平八郎

養

信長

御川左近將監之普光

實文

妻次

富田藏人依之建治

實母

姓氏不明

妻

山内對馬守一景女

右正重氏年号八月廿五知妻改改
四能改改

文保四年七月廿廿死葬寺在自
法名昭光院清岳宗親

三吉

七三和 改助九郎 後ノ南

養母 右國司

実父 姓氏由事知

実母 姓氏由事知

右三吉 成永年八月廿七日 改養母

羅成少知 高年 判官 仕家 改 高 廿年

七月廿一日 死 系 起 葬 寺 右 國

法名 一 从 宗 貴

正方

年七仲 改子左衛門

養母 右國司

実父 川比千右卫門 三左衛門

実母 花房日藏 三左衛門

書 津田山家 侍 改 養母

実七 小 多 須 伴 部 住 津 田 三 八 郎

三 三 女

右三 万 民 慶 長 八 年 年 月 日 山 塚 園

依 見 出 生 年 号 月 日 相 知 事 改

養母 子 三 三 女

元和二年年八月朔日於後府

權院係御高申 御目見証 御付十

四第之時江戸

將軍御旨羅致後取之以上意江戸御下

酒并雜業以被取之御旨

古法儀御 御目見証同年月日名古知

家智御旨遺事申至其後御旨

御院上上被上物仕御目見証御旨

及進上更進後右名古知御旨入因之

己年五月廿二日

御次第申下至今以可被供也

右御列物字

丹波國桑田郡内上村長尾園

足波郡内上村内山八郎内上村

大社郡内上村相樂郡内上村

可見御旨之村所之御旨御旨拾

其名余御御事令使御旨可令

知以者也

元和二年五月廿二日

御次第

津田平左衛門尉

同九年七月四日相報

大藏院様御上候之由候仕

宣旨水之宣旨年月日申知

將軍御上候之由候仕此性候申上申事候

但之由候仕

同九年九月廿日 以奉旨申事候

之由候仕申事候

同九年三月廿日申知於江府神妙事候

相報申事候者之由候仕

石出心申事候之由候仕 是後

相報仕

同九年三月廿日

台様院様 兼清 申事候 増上申事候

御申事候

御遺金白浪百枚申事候

同十五年八月廿日申事候

申事候

同九年七月廿日申事候

大藏院様御上候之由候仕 申事候

別申事候 同組 申事候

紅田之水場田甚廣一組四人二
月市日江戸各宿別在初山秋
赤石多由意成出来仕由有
四人一世之角人十為世古
之世之自尾大目付秋山
水見付之味之屋門願主
長束右御任兼平上御書
御代
御上
御下

麻養生仕在下
仕江
對馬
正方
御敏
因十
法取
差四
因十

六月廿五日發之相和
長江所

同十七辰年四月廿九

御社最清名刻也 御守三月廿九日

宗承門孫名刻也

御成之日 御自見也 御及御礼也

御守御和也 御後相和也 御及御和也

御守也

同年七月廿九日知清名刻也 御守御和也

御守御和也 御土御守御和也

同年八月廿九日知清名刻也 御守御和也

御守御和也 御及御和也 御及御和也

同十九年三月廿九日知清名刻也

御守也

同年二月廿九日知清名刻也 御守御和也

御守御和也 御及御和也 御及御和也

御守御和也 御及御和也 御及御和也

御守御和也 御及御和也 御及御和也

御守御和也

因三年八月日知府原任用

因三年八月日知府原任用

因三年八月日知府原任用

因三年八月日知府原任用

因三年八月日知府原任用

八百後是西人也羽三年進運每三月用

相初十月高雷時府供

慶安四年八月日知府原任用

因三年八月日知府原任用

明曆元未年二月時所任也
 同二甲午年八月日知豐後府内日根地
 藏部正左左内右衛門守也 保身 壬子月
 及後之書使社友在厚志主月日歸所
 同二丙午年三月八日厚補頭燒也任也
 金四百兩洋領也
 万治元貞年八月日知 泷城出書信
 身仍任保身
 同二子午年近相初也

同二子午年八月日知仙臺也任也
 保身 同八月日知出帳入金三叙此後為願
 任也九月二十日知人右左左古使把持也
 寛文元年二月日知厚任也知也
 以同元年三月日知也 壬子年三月
 江戸府府任也 兼寺任也
 法名未出 燒燒 松雲全常

素信

南渡

卷五 在門内

実父 津田平前三三男

実母 山内對馬守一妻女

右南澤宗成平年八月日母死後其子任
禪宗系於花園妙心寺中長身其流
少林寺守子云能成右寺三任威仕也

養女 養長子 津田平左衛門三万妻

養母 在司以

実父 津田平左衛門伴成後

実母 津田平左衛門三三妻女
山内對馬守一妻女

正勝 年七所

母 津田平左衛門伴成後

妻 百人頭之乳
前田權作定行女

右三清養 享永四年八月廿五日
京那出生仕也

享永十九年年五月十二日那任仕也
初分

大融院縁 御園具在御太子自孫浪馬代

秋在任

慶安之三年九月二日此書院若少條在任
相初申

寛文二年二月九日又此書院若少條在任
相初申

延和二年四月七日此書院若少條在任
相初申

享和二年九月十日此書院若少條在任
相初申

同五年三月十日此書院若少條在任
相初申

同九年九月十日此書院若少條在任
相初申

同十三年十月十日此書院若少條在任
相初申

同十七年十一月十日此書院若少條在任
相初申

同二十一年十二月十日此書院若少條在任
相初申

同二十五年一月十日此書院若少條在任
相初申

同二十九年二月十日此書院若少條在任
相初申

同三十三年三月十日此書院若少條在任
相初申

同三十七年四月十日此書院若少條在任
相初申

相願仕小延宝元廿年九月廿九日海府使
延宝二三年高氣身才能少妻
御免上月十日高氣身才能少妻
同元己年二月廿九日海府使
御免身才能少妻
同七年二月廿九日海府使
御免身才能少妻
御免身才能少妻
御免身才能少妻

正辰

改定常 御在島島 改定中 後任身才能少妻
母 在島島

在辰身才能少妻 水七年年七月廿九日海府使
御免身才能少妻
實文二官年二月十八日海府使
御免身才能少妻
御免身才能少妻
御免身才能少妻
御免身才能少妻

正亥

改定常 御在島島

母在國新

右三葉依實元永十二亥年江戶生
寬文二宮年二月八日分封彌三國
任身漢公知所新之角之正右分
任身高時忠告院若女友任身與德勝田
忠右長門家之山世公

女子

育身

秋山依屋尾三後書

母在國新

三氏

長書師

母在國新

右三氏依實元六年四月江戶生
延寶六年三月廿二日卒
任身葉寺在國
法名了真知智

女子

早世

母在國新

三親

名師

御書院書院

正書和事与康利女
不原手雜列仕

右正親皇女寛文八年二月十八日於
江ノ出生仕

長女慶應御代延宝七年七月九日入京初
御至皇女御老中出列仕給舞員御書及
江御後山内月廿日出向子板板令之中心
多死之御成仕
同十年八月十九日御書(御書)御書

金馬(代)心十上(代)後辛路八御書院
奥方同御書院(代)心十上(代)
天和二年二月廿八日皇女御書院仕
元禄二年二月廿八日皇女御書院仕
同十年二月廿八日皇女御書院仕
御書院御書院(代)御書院(代)御書院(代)
同十一年九月廿六日皇女御書院仕
同十年九月廿四日皇女御書院仕
御書院御書院(代)
同十五年三月廿二日上(代)御書院(代)

湯治願之通事 呼子天賦中
同十六未年十一月廿日 後委精燒仕
宝永元九甲年四月廿日 組河内海浦
差上同年八月廿日 友右松皮
出所去更上之地 荒伴料之通事
同四年 病床身二月廿日 坊三所
出所去所左傳 弟遊身遠之唐人
九年 呼子天賦 同七月廿日 右所
之通事 呼子天賦 呼子天賦
母後之殿 呼子天賦

同七年 八月廿日 隱在寺於山而德
二年 二月廿日 者願之通事
呼子天賦 同年七月廿日 隱在寺於山而德
浪長代御上仕
享保七年 八月廿日 隱在寺於山而德
呼子天賦 呼子天賦 呼子天賦
法名 隱雲院 本光石琳

此書院書名係抄寫也

傳田中三所之圖書

丹家母

呼子

系

岩三郎 早世

丹左衛門

系

早世

丹左衛門

系

十次郎 没年不詳

卷母 没年不詳

實母 没年不詳

曹母

有母

種山 没年不詳

妻

養父

津田 没年不詳

石正典 没年不詳

常安院 没年不詳

子孫 没年不詳

因年 没年不詳

河目 没年不詳

初

河目 没年不詳

同日三月十七日辛卯日白月出仕云
何升云

三德二春年六月五日父帝誓云
此在平西列位秘元但馬守殿
重之出用也故大御礼
同年七月五日百部守
金鳥代云云上云其後辛卯
御太子浪鳥代云云上云
同日己年五月大御守
半之出用也故大御礼

後之知年卷子
三之病死也云云
其年寺在因
法名源雲院
柏貞海心

女子
美良子 津田忠左衛門(三曲)云云

母 康女

在女子云云病死後云德四年二月
日弟亦知出使者云云成半七所時也云云
嫁云云

女子
早世

冊右同以

正後

幸三帝 汝上助

卷母 宗室

定父

此中院諸君保後等
津田氏之山國總領

室母

宗女

書

西宮新書院

津田氏之山國總領

室之母身以 稻垣流流子 室女也

有章流攝御仲共往之 年宜 青月中自宿成

急卷良子之成 同年九月十三日 卷良父家

智之 室女也 井上河内之殿 宗女也

進之 室女也 井上河内之殿 宗女也

同年二月十一日 宗室之 津礼也 宗女

因縁人 室女也 宗室之 津礼也 宗女

御目見仕 同年 津礼也 宗女

第月 津礼也 宗女

正徳五年二月二十四日
 伊丹相勤中へ
 古書松山教馬
 古書保之氏年二月朔日
 御免
 同四年七月廿六日
 寄合
 同三年十月十日
 園部左衛門
 同七年六月廿六日
 同七年六月廿六日

同五年年 後府在書古和
 白限拾玖日
 同三年十月朔 後府在書交代
 同十七子年二月四日
 同五年二月十日
 同四年六月十日
 同四年六月十日

養母

西丸新造

津井内宿氏備養母

実父

出羽丸

物部橘摩子七列女

実母

口

物部伊子忠首女

妻

養父

津田大助正後女

右二女并養母保白貞年九月十一日
於江戸出生也

信位尾藤御代養父大助等男子也

三子信子等年養母子等也

延享四年六月廿日彌三通記

延享五年正月廿日部屋

御用見仕

同年三月廿日

江

宝曆四年四月廿日

西尾

新合

同年十一月廿日

同孫全

史方國孫御馬代浪氣秋上在
王後辛卯八朔以孫目孫浪氣代
中上

同五亥年七月九日四首山首
作身五初相者抄年日記

同八亥年七月十日四首山首
御氣立作年日記

明和元申年七月十九日四首山首
作身五初相者抄年日記

同四亥年六月六日四首山首
作身五初相者抄年日記

三十九年辛亥在角

法在寅皇流自山藏性

女子

養子 清田之信正芳書

母在角

女子

清田内藏人光芳書

母在角

正直

改信貞 七歲 改在直 又七歲在角

母在角

右正補正明和六十年十月廿日
小御守之懸格成案より成る

正永

乙三物

母 在自以

右正補正父元久羅五出永三年
十一月廿一日云永三書在任也

正補

英太布

母

祖父 洋白子船以渡也

妻

身合

二好指上角侍遠也

右正補正父宝曆七年十月廿日
後明流御所代明和四十年九月廿日入
宗智元之身合也 仰身以之松
平在系去更履之御所也

同年二月九日家智之御所系身
御所内同系人玉島代以傳之御所
西御在之身也右方同系御所代
根之教以傳之御所は之身後系也

以朝河内乃自係浪島代領上供
明和八年四月五日袖南領之通
云休休云

每承之本年二月五日之後領之通
云休休云

同年八月九日由領上供同日五日

清目見願美云云

同年三月廿五日初五日

清目見住由乃自係浪島代領上

同日五日午年係書所由月領出住

云休休云同四年二月十日市信

清目書云休休相和書中多云云

同七年二月七日市信由乃云

清目見云休休云

天明之九年十月十日書云信由住

休休云

同五年八月十日書云信由住

休休云

同八年八月八日書云信由住

清目見云休休云

寛政二戊午十二月十八日家馬
 上院云 你身多相和也
 同八年九月廿日家馬
 上院云 你身多相和也
 同九年六月廿日家馬
 你身相和也 相和也
 同十年八月廿日於江戶相和也
 甲二米家馬寺在自
 法右桂海院堂相和也

女子

母

小善院也
 此在江戶也
 二好勤 勤長也
 壽合 二好勤之助侍長也

某

母

奥松 早世

女子

母

奥院普
 此在江戶也
 花房 勤長也
 在江戶

姑承性性大至保豐元寺但津田平助所
三誠想願津田平助正亂日嫁之
弟係平助雜別仕于後花園房幼在門
三貞書之

女子

母在園所

物之戀

三及夜

母在園所

書

書及對馬寺位成慈願
書及對馬寺位成慈願

私儀天明四年五月廿四日

宣政十年八月廿四日

少室多合

此作後

同年三月十日

平河寺方目録

此西 津丸

清島代領三教以便其執上休其
後幸路以網濟其方自孫領其
休小

來
石田好之丞

丹石田好之丞

高之丞拾之石田好之丞
丹石田好之丞
丹石田好之丞

在兵庫四宮町友新屋發

津田好之丞

寛政十一年三月

未十二日
發
印

つ
平
又合にありし

系譜

未
二月十八日
寄合行書

又合
八拾二番
留田書

又合
津田瑞之助

平姓

津田

從之紋

家之紋

弟之紋

型之紋

仇

仇

仇系卷

車卷

人王平代相而天下之後胤法皇之四代
津田權左文親自具
先程之信也嫡家子合津田好之丞
方之書上平下

平氏書の上平下

三常

昭三辰

昭在鳥物 平四郎

母 出卷者若

津田少平治者及其母

其子 少平治者及將其母

津田平之介 平之介

書 山内院若

特許位家臣出類内藏九員信也

寛永七年七月江戸府内書

万治之五年二月廿五日又取方自書

為有之信

御目見信也

寛文二定年二月十八日又取方自書

推古天皇六年八月庚子日遣使往百濟
願之通使仰身世所改也
宣文之六年十一月十九日書後若
此仰身板合系市正經入
延寶九年四月廿五日中根大陽等
被遣之國城內強劫之故方之彼地
御用之書以之使仰身同五月廿日
御身見之帳等之書味後之御藏金之
洋願仕之御用之御用之御用之御用
同七年 御身見之帳等之書味後之御藏金之

同年二月九日有本國人繼之御用之御用
同年二月廿七日有本國人繼之御用之御用
天和二年四月廿七日有本國人繼之御用之御用
出如御用之御用之御用之御用之御用
少師之御用之御用之御用之御用之御用
歲在乙未書出御用之御用之御用之御用
同年七月廿五日有本國人繼之御用之御用
此同同年之御用之御用之御用之御用
折井多屋之御用之御用之御用之御用
同年之御用之御用之御用之御用

天和二年九月廿二日

甲府依由赤虎新 仰身弟自新撰白

御殿 甲府依由 清國元任初之由三白

新地之千石也弟等甲之任信之由三白

洋願仕之千石也弟等甲之任信之由三白

同年十月廿元初以千石在美良子

主望所之由三白也弟等甲之任信之由三白

之由三白也弟等甲之任信之由三白

仰身弟自新撰白

同一年九月十八日鐵部之由三白也

元禄元年三月廿二日
同一年三月廿二日
同一年三月廿二日

同一年三月廿二日
同一年三月廿二日
同一年三月廿二日

同一年三月廿二日
同一年三月廿二日
同一年三月廿二日

同一年三月廿二日
同一年三月廿二日
同一年三月廿二日

同一年三月廿二日
同一年三月廿二日
同一年三月廿二日

下谷宗延寺信實
号 宗延宗延寺信實

女子

冊

女子 津田三左衛門 信實

出紙内藏元貞信實

女子

冊

出紙内藏
御宗後河内

毛利玄樹 元貞 信實

女子

冊

女子 津田外記 信實

右同

女子

冊

出紙内藏

出紙内藏元貞信實

實父

實母

折井希左衛門 信實

信實

元和二年九月十日 實父 三左衛門
甲辰年 出紙内藏 新和 三左衛門 信實
成國年十月十日 實母 三左衛門 信實
右三左衛門 信實 當時 西左衛門 信實
出紙内藏 津田 三左衛門 信實

三左

信實

信實

外記

實母

出紙内藏元貞信實

實父 出紙内藏 三左衛門 信實

宝册表取后

川北十号又云云

書

書

津田紙本与宝册

凌書

小宗源氏与宝册

延宝元五年十二月廿日紙本國出生

元禄五年七月廿日右外記紙本

修之末卷良子成因年八月九日

甲府中納言

出方目録浪馬代献上仕

常宝云云初

津田元任

目録浪馬代献上仕

元禄十一五年十二月廿日紙本

津田元任

延宝元五年十二月廿日

常宝云云

仕帝

宝永元申年十二月廿日

甲府中納言

二仲成多

同年十二月廿日

同二年八月十一日水部院之官船至京
 後在海口之角館合之千石水部院
 室水六生年十月廿八日由使番之御舟
 同年十二月十八日布衣之御舟
 同七年十二月四日由使番之御舟
 出帆之御舟時後之御舟一其令之御舟
 洋領仕之御舟八月廿八日由使番之
 御舟中上之御舟
 正徳二年十月十日
 文部院御 其御之御舟及紅之御舟

御舟之金五叙洋領仕御舟御
 同十二月十日御舟御
 正保元年申年七月十日御舟御
 河波渡總費承奉後七ノ國御舟御
 御舟時後之御舟金五叙洋領仕
 同年七月十日御舟御
 同之申年七月十日御舟御
 御舟時後之御舟御
 同十一年六月十日御舟御

辛辛回河内德林寺葬
号安云院收履之作

女子

号合

酒井節之仲子自志

母

津田御子之房

三純

津田首之助

母

赤女

宝永五年八月廿九日府出生

三徳五未年六月二十日歳之宿死葬代而
号寂照院前月初光

女子

母

赤女

津田外礼三明子

女子

赤女

津田之房長三重子

母

赤女

三昭

始新治所 辛酉外礼 利長 同安氣

養母

赤女

実父

細川家女三利長之房

実母

赤女

妻

養父津田外礼三信子

元禄十五年五月廿日府出生

享保元申年三月廿日府外礼候子

海三子 養子成

享保二箇年十一月十五日新屋住三和吉
 有徳寺
 御自身仕下由入自馬代殿上仕此
 享保十一年九月四日當英皇又三后御通
 事御事下至事合事御事
 同年三月十日家督三清院上上史力
 金屋代殿上仕
 同十三年九月四日山下山門書
 修身同十三年九月廿日山門書
 御免仕御事
 元文元在年十一月十日由使書御事

同年十一月十日市夜御事
 同二年八月四日知禮厨出御事
 御事同年十一月十日御事
 寛保三年十一月十日何屋御事
 後延徳御事
 御免事合御事
 西尾徳住御事御事其御事
 後延徳御事御事其御事
 同四年五月十日御事
 御免事合御事

寛延二年六月廿五日書内月日在
出仕在如度願書中多件錄及殿上在
上之安因七月二十日願之通三任出仕
之同月廿四日中書出仕
同年三月廿八日市之旨出仕書云 仰升
宝曆二申年十二月廿日出仕書
御免之仰升
同之同年四月八日願之通陸中云 仰升
家習伴平四郎左衛門尉
同四年六月十二日判發仕願書云

改名供公明和元申年九月廿日書之仰升
仕申年之居之案地本因
号 成祚院仁豊了活

三春

母

和文津田外記三房也
鐵田並原中位家

享保三未年八月十日江府出生
宝曆元未年十二月七日江府任

博位公長初号 御目元仕申年八月廿日任

宝曆二年四月八日父外紀彌三通院
 此卿身之西尾院住之御海也
 同年二月廿七日金鳥代御上仕也
 嘉吉二年三月十日市之若山門番
 保身同八月廿一日在出門番
 河先之御身也
 同和元申年八月廿二日山下門番也
 保身同四年八月廿五日在出門番
 河先之御身也

明和七年九月十二日西坂出門番也
 安永二年九月十二日西坂出門番
 河先之御身也
 同二年四月十二日病死仕人同谷八築地
 百回 号重通院重通及院

三將
 母 津田全之助 後世云
 母 津田外紀之屋女
 母 正吉院若 弟重通院重通
 母 村上之徳心恒家
 母 在月
 母 在月
 母 在月

西尾山左院之由是宗子也其外孫孫也
好之孫難別仕其後再孫也

三偏

母 永母

傳田内近物

早世

三利

母

傳田遠南物

織田美徳子信能也

明和元申年十一月九日府出生
明和八年二月二十日百年八月三日信能也
家地米同 号信了院首公知括

某

傳田内近

早世

母 永母

養母

養子 傳田外礼 三書

室千代山左院

另養礼信能也村上左信三恒也

母 傳田内近 三明也

三書

永母

又三叔 知信又元 永母外礼

養母

織田美徳子信能也

室女

母相左京左又三子元三書

室母

母相左京左又三子元三書

書

養父

傳田外礼 三書

寛保二年三月廿五日府出仕

出承三年四月十日三春成内氣差

右外記依延徳三年急事子守於

同月十日病死仕仕同年七月廿五日又

三春成内氣差仕仕同年七月廿五日又

依後外記依延徳三年三月廿五日

金馬代秋上仕

天明二年 御目元仕仕御目元上仕

寛保五年申年二月廿三日大車場名廻

仕仕

天明四年三月廿二日由徳所御出仕

御補出沙頼徳仕仕

寛政五年三月廿二日由徳所御出仕

御付仕同月十日布衣仕 御付仕

同七年三月十日病死仕仕同年

三月十日病死仕仕同年三月

西原 姑三幸 御三幸

世 依又清田御出仕三春成内

出承八年三月十日江府出仕

寛政七年三月八日由父御出仕

小室高直公傳
後大同二年六月十日
金馬代秋上仕小秋高直
津田波野所

右之通涉世山

高之千名之河國之角
中國尾張
生國或成

寛政上未年二月
津田錦之助
五

つ 平

系 護

平中
八拾四番
津田豊平

未三月
河部大業

西乃五七性
津田平次

平姓

津田

人土平代在武天皇二十一年法皇御代津田
 權守親正以江津田村任職其職田
 庄為神戶職田其後親正之子孫是利在唐寺
 之後長遷其後親正之子孫尾法園山岩
 全歸主職田其和寺殿之入作津田之祖
 之後其痛平并合津田好之其子平書上
 第之後
 第之後
 第之後
 第之後
 第之後
 第之後

津田平姓傳(平姓常)

正常

正夜

右長卿

為少任職

誠有長長下

母 山邊

津田平姓傳

書 山邊

由親月職元貞信

右親正之子平書上七年八月廿七日
 出生仕父平書上七年八月廿七日

表有云

津田平姓傳

平書上之子平書上七年八月廿七日
 七月廿七日知親正之通云 平書上之子平書上七年八月廿七日
 因之平書上七年八月廿七日

吾保丹公... 中根大... 出... 地... 冲... 相... 右... 冲... 以... 同...
吾保丹公... 中根大... 出... 地... 冲... 相... 右... 冲... 以... 同...
吾保丹公... 中根大... 出... 地... 冲... 相... 右... 冲... 以... 同...

同... 出... 吾... 同... 不...

上野國 山田縣... 下野國... 右... 七月...

洋領國上月廿五日由當官在後山町
紀三善後折井市左衛門山利次郎折井
宗延等所立年終奉養子云云仰付云
同日三善年九月廿二日
甲辰年九月廿二日 仰付云
折井市左衛門山利次郎折井
宗延等所立年終奉養子云云仰付云
同日三善年九月廿二日
甲辰年九月廿二日 仰付云

貞享五年九月十八日御書云云
元禄五年七月廿五日御書云云
折井市左衛門信成等所立年終奉養子云云
同日三善年九月廿二日御書云云
宗延等所立年終奉養子云云

山代

折井市左衛門山利次郎
宗延等所立年終奉養子云云
折井市左衛門山利次郎
宗延等所立年終奉養子云云

妻 樋田氏

津田氏

右三子長子 山内氏 康徳二年 八月 嘉祿
出生仕所

天和二年 八月 申 旨 出 文 祿 寺 住 持 通
三友 情 山 年 暮 子 三 子 子 樋 田 對 馬 守 後

同 三 十 年 二 月 廿 日

常 憲 三 子 初 子 津 田 元 仕 所

同 年 九 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日
少 暮 入 心 仰 拜 三 子 田 山 守 後 三 友 後 中 根
大 陽 寺 住 持 入

同 年 十 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

百 石 名 守 至 同 國 同 四 子 年 二 月 十 日 旨 出

出 任 所 分 同 係 根 根 根 根 根 根 根 根 根 根 根 根

同 三 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

元 祿 六 年 二 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

仰 拜 三 子 同 友 丹 後 守 後 三 友 山 内 氏 後 者 日

廿 七 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

三 友 山 内 氏 後 者 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

同 七 年 二 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

同 年 六 月 廿 日 旨 出 任 所 三 友 山 内 氏 後 者 日

因年三月十八日布衣... 仰身... 正房

元禄三年正月... 仰身... 仰身

同年二月... 仰身... 仰身

同七月... 仰身... 仰身

同... 仰身... 仰身

室永元申年八月... 仰身... 仰身

仰身... 仰身... 仰身

仰身... 仰身... 仰身

仰身... 仰身... 仰身

仰身... 仰身... 仰身

仰身... 仰身... 仰身

室母 妻 長

川北十五女三完女

右三子房成元禄七年七月廿二日

成元禄七年七月廿二日

家合津田瑞之助方古少

幼子

卷良子

津田三左衛門三女

母

室於内藏元貞信女

幼子

山内院著
和泉院御前

名利三橋元女

母

在園

幼子

卷良子

津田外礼三女

母

采

百助

早世

母

津田誠宗三女

元禄七年二月廿二日

采

在園

早世

母

在園

三女

十五女

三女

母

在園

書

法河所著

津田外礼三女

本三女書三女成室永七

江府出生

方多保五子年十二月冒父之官長...
 以市商名三由山城...
 伴丹...
 同六年三月...
 類...
 同年二月...
 同十八年...
 有...
 行...

亦...
 由...

實保...
 同...

宗...

三壽
 母 乃名 早世

三峯
 母 三名 早世

右正奉俊宝曆五年辛酉八月廿二日
御前根生女御以女配津田七右衛門正侍
美良子成

妙子 早世

母 津田織子早世女

妙子 津田早世 植村五郎八三女

母 石川早世 右衛門

妙子 北性早世 石川早世政明妻

母 川橋早世 于後之早世 雜派早世 右衛門

妙子 新嘉 幸山早世 德信或親親屋妻

母 早世

妙子 早世

母 早世

妙子 早世

母 右衛門

妙子 早世 津田早世 正侍女

妙子 早世 長門早世 佐五郎

母 右衛門 津田早世 正侍女

右長門守文敏嘉保三未年三月廿四日
臣人出生

寛保之三未年三月廿四日又記式部卿
平左近将監殿之御後山幸信能行申
因防事多致

延享元子年三月廿二日德目之御後
自係浪人氏之御申上申之御後
寛延四未年五月廿二日出病之御申
同申七月十八日出病之御申
同申七月十八日出病之御申

宝曆元

宝曆元年三月十八日德目之御申
打年右近将監殿之御後山幸信能行申

宝曆元年三月十八日德目之御申
同十元年六月廿二日

宝曆元年三月十八日德目之御申
同十元年六月廿二日

宝曆元年三月十八日德目之御申
同十元年六月廿二日

秋元但馬守殿三原長

明和四年二月廿七日辰時生天任類

特許之旨也

同日五下病氣牙車欲中氣也小性

清先命合之仰升之松平右近守文之反

仰後命承之同年以御事地諸地例也

之旨仰命對登彌之通之仰升之

兼命母後守殿

同年十二月十二日申時生天任類

之旨仰命門初申也

天明五年十月廿五日辰九時死

地方同号 之旨之院道之旨

某

南親 早世

母右衛門

三松

水島 庄屋

母 茶女

宝曆十一年年五月十二日申時生

中世之院道之旨

天明五年七月十二日

之旨仰命

馬代子以中上

同年十二月廿九日青島所授元同令
前人重武百由洋信之仰身右令子同八
年公家改四子年近丑年三月上南信
天明九年三月廿三日忠性降書合
仰身之物仰後書後之仰後書後書
入至深也書之仰身之仰身之仰身之
仰身之仰身之仰身之仰身之仰身之
仰身之仰身之仰身之仰身之仰身之
仰身之仰身之仰身之仰身之仰身之

同八年九月廿九日青島所授元同令
同年二月十日

大納言御書仰身之仰身之仰身之仰身之
仰身之仰身之仰身之仰身之仰身之

同九年五月十二日青島所授元同令
上沈之仰身之仰身之仰身之仰身之
仰身之仰身之仰身之仰身之仰身之

三宮 母右月

正風 織之仰

和葉多官通海舟

右員

左員

右員

右員

右員

舟

舟

舟

舟

舟

舟

妙子

三一

三員

女子

三長

右之通由在少上

高千代石

上野國
下野國

平國 尾張
生國 武藏

和泉浦田在出高右所

寛政十一己未年

津田平次郎

印

四拾二筆

未
上
月
廿
九
日
出
發
後
停
宿
於
此
處

系譜

つ
平

好
一
世
子

一
少
年
□
四
書
○
好
用
書
卷
五

好
一
世
孫

好
一
世
孫

津
田
右
左
衛
門

平手

津田

幕之役

仇内之役

家之役

仇内之役

聖之役

系巻之役

津田平手之三方官

三葉

母 津田平手之三方官

妻 河野之官 母 河野之官

寛文十三年三月十五日生
了作二十二年三月廿五日自見

三周

母 津田平手之三方官

妻 河野之官 母 河野之官

寛文十三年三月十五日生
了作二十二年三月廿五日自見

寛文二十二年二月八日...
寛文二十二年二月九日...
寛文二十二年二月十日...
自見二十二年八月十五日...
其初通傳林寺号法行院...
寛文二十二年三月十五日...
了作二十二年三月廿五日...
寛文二十二年三月十五日...
了作二十二年三月廿五日...

元禄二年四月廿九日入唐州河野郡中
 元禄三年九月晦相与台号友
 同年三月二十七日
 元禄四年六月廿八日入唐州河野郡
 元禄五年三月廿八日入唐州河野郡
 元禄六年八月十八日
 元禄七年七月廿九日
 元禄八年四月廿九日
 元禄九年三月廿九日

正峻 大物 初幸之介

母 希女
 正德二年三月廿九日
 正德三年三月廿九日
 正德四年三月廿九日
 正德五年三月廿九日
 正德六年三月廿九日
 正德七年三月廿九日
 正德八年三月廿九日
 正德九年三月廿九日

素 運津多前人為地越古馬印白素
 素 甲府勅表 法師事在道實探女
 元禄五年三月廿九日
 元禄六年三月廿九日
 元禄七年三月廿九日
 元禄八年三月廿九日
 元禄九年三月廿九日
 元禄十年三月廿九日
 元禄十一年三月廿九日
 元禄十二年三月廿九日
 元禄十三年三月廿九日
 元禄十四年三月廿九日
 元禄十五年三月廿九日
 元禄十六年三月廿九日
 元禄十七年三月廿九日
 元禄十八年三月廿九日
 元禄十九年三月廿九日
 元禄二十年三月廿九日
 元禄二十一年三月廿九日
 元禄二十二年三月廿九日
 元禄二十三年三月廿九日
 元禄二十四年三月廿九日
 元禄二十五年三月廿九日
 元禄二十六年三月廿九日
 元禄二十七年三月廿九日
 元禄二十八年三月廿九日
 元禄二十九年三月廿九日
 元禄三十年三月廿九日

某 卷之四

母上直

小太郎 傳野中玄布園之方書

母上直

山 雲 陰末甚之介正書書

母上直

利直 娘利澤 三林平中 幼右之書

母上直

宣和三年三月十一日 一紙 右書 以三林平中書 宣和三年書也

三卷 卷之三 幼右之書

卷之二 園地中書

右書母成七右也 右書後中紙

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年 宣和十三年

二高

通生 右左衛門 内記 改定二年

卷良母 春日内侍

實父 右院若 河野三年通生官

實母 春日内侍

生妻 春日内侍 山内守

後妻 河内守 山内守 山内守 山内守 山内守

宝曆八年三月廿五日生

安永七年三月廿五日生

安永八年三月廿五日生

安永九年三月廿五日生

安永十年三月廿五日生

安永十一年三月廿五日生

廿

母 春日内侍

卷良子 右左衛門 山内守

母 春日内侍

廿

母 春日内侍

安永四年三月廿五日

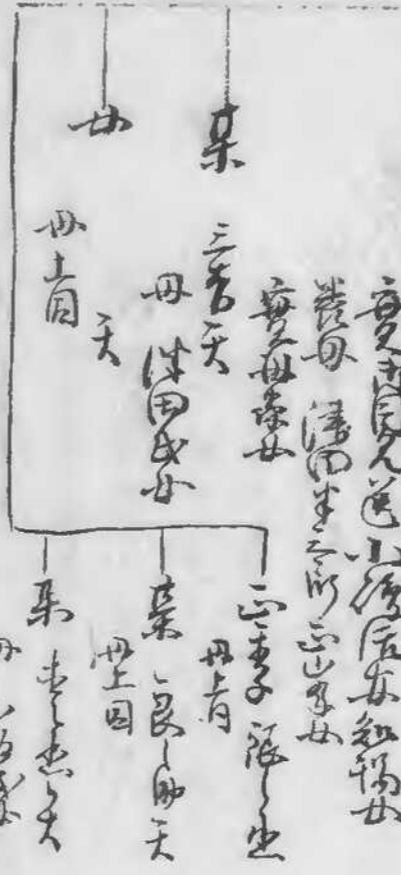
安永五年三月廿五日

天明九年三月廿五日

廿

母 春日内侍

三澤 辰五郎 文化五年正月十五日
母 津田氏女
入西名子屋 酒井氏女



右 通津津 津田氏女
三子 石見屋 本國屋 山名川三九 浦屋 辰五郎
寛政十一年正月 津田右左衛門 丑

未三月六日
近友 津田氏女

子氏
以拾番。 津田豊年

系譜

つ 平

津田氏
近友 津田氏女
津田半平

平氏 鐵田

先祖鐵田作少佐由來相繼常山
生國尾列海東歌松葉庄城主

山藤之紋 仇向 唐花
宗之紋 右圓形
聖之紋 右圓形
丑之 桐

生少
佐少

清幽

此帝鐵田性少俊敏不請而後

右仙者成佐甚公任十分之尾列之宰人任

推腹極之紅園意之成於其少河那作歌也

石出 清車志仕少其作名在少所少少少

於清府 尾尾南之殿上之海尾列清取

少之成少少年岩百手取之少少少少

仙者成尾列之任人少云于上表表少

士之少自少成少少之疑也成不之指也

少少少少成 上之少仙者皆有少家

上之少少中一感海少流之難有少少

相采少之言酒也

柱腹極之少少少少少少少少少少少少

志清少少少少少少少少少少少少少少

九千九百九十九 号不知

又用... 信月凉宅

在本... 信月

權理... 信月

宣永七年... 信月

宣永十年... 信月

宣永十八年... 信月

信月

大... 信月

宣永... 信月

祥... 信月

号不知

又... 信月

重正

母 弟不知

信月

大... 信月

宣... 信月

宣... 信月

又... 信月

重智

信月

母 弟在口外

有院御書代

弟應二至三年十二月廿五日卷又源之傍
記或下至小菅信從松浦内藏御書代入
以唐之丁酉年一月廿二日大書高打書入
松平外記御書代
寛文十三年丙午十月二十日沖勝地方高書代
久松志之常御書代
元禄十七年十二月廿二日新美之河書代
作院書代御書代十二月廿二日河書代高書代
以口外御書代御書代

有章院御書代

額 室永立成子年二月廿五日額之通小菅信入
松平信之御書代

西德之至乙年九月十二日廿七日卒死

弟口外御書代 弟海院書代御書代

氏智書 弟口外小菅京 弟口外自心坂

氏輝 六之御 弟口外七御六代

母 弟口外 小菅京 弟口外自心坂

有院御書代

寛文九年乙酉年

河内見仕

延宝六年六月廿九日大御書津書入
板倉屋孫也借入

有章院御書

正徳三年己未八月廿六日未年法武宗
以後大御書受我因御書紀三郎
享保十二丁未年六月廿七日死常山年
号千日流通海心

氏輝書 卷川在在
吉川檢校也

吉川氏輝書 卷川在在 享保十二年六月廿七日死常山年
号千日流通海心

養丹 卷川在在
吉川檢校也

実丹 卷川在在
吉川檢校也

有章院御書代卷川津田中七郎成富子平
大御書吉川丹後守紀三郎

享保五年六月廿七日死常山年
候御書後天卷川子平紀三郎
五月廿二日卷川子平丹後守紀三郎
廿七日候常我園防守紀三郎
同十二丁未年六月廿七日死常山年九月四日
私父中平年六月廿七日死常山年九月四日

子死入于後方念是即事死也
因于乙卯年四月三日大清音日海音入船
下地也但入

宝曆二年二月廿五日開井花淨寺住持
大洲善坊田若林寺住持五郎右衛門守
三平守山守山守山守山守山守山守山
物多敏也作後相物也後老喪住持也
清波御前也守山守山守山

天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持
領心院水夜良收

右代也良收
天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持

天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持
領心院水夜良收

天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持
領心院水夜良收

天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持
領心院水夜良收

天明二年八月廿一日自死和國寺兼住持
領心院水夜良收

月出院和國寺兼住持
竹村友之郎女

輝元男
忠貞
吉村新右衛門

家永八己亥年八月廿一日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

女子

家永七年庚午七月廿七日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

女子

天保九年七月廿三日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

輝元家子初願傳國五年八月廿日

久賢

日先院棟梁吉村新右衛門

母

竹村新右衛門女

新院家永七年庚午七月廿九日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

天保二年庚午十二月廿五日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

家永七年庚午七月廿九日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

家永七年庚午七月廿九日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

家永七年庚午七月廿九日大坂石川河津會館
之民吉村新右衛門忠貞事年五歲

久貞

孝子

津田次郎

早世

寛政六年癸未九月十日死

久智

孝子

津田初太郎

早世

天明七年未年十月五日死

久信

孝子

津田大蔵

右為書後寛政六年癸未八月廿五日死

病死仕の身二男惣辰は及子初國年

十一月朔日通二男大蔵惣辰の仕後以傳

輝賢

孝子

津田三郎

女子

右に通法在の上

高之百儀

本國屋法
生國氏藏

好願屋補

下古津成道

元老儀清心

寛政十一年未年

津田半平

西

未二月初

長田後山守

先祖書

平朝

主簿九以上

新出係

平中 口

四拾九番。切田守

西九少人

長田守

津田守

平氏

津田

上德島平三望之俊流織田權左又
親實任國書代之十家出知家名
津田之右宗少民出知

家三俊

仇

家三俊

仇

家三俊

仇

津田十左衛門信利忍能

信牧

十郎

母

名和

素

河原

行山玄作也

白戸之出生

辛号月日不知如友或於浦明成在

家本城三身源人仕也

元禄九子年十二月朔日

常憲云赤代新規云古出沙府中書也

伊身也四系百古名儀也

宝永六年二月廿七日若科百位也

古至三向清若也伊身時後身之深順

三徳六申年一月十六日一歳小童信入
大徳元号中經之改
享保十四年二月八日病死住信家地
平願寺中妙延寺葬
法名受覺院新淨意

信徒

如左門

十郎

母

河野師

斤山玄作女

妻

北卷守房

石川御前信流妻

伊予守出生

享保十四年六月五日父信自願之通
信守之妻信太保也新守也信守也
延享元子年八月十四日西丸表守守守
伊守也
寛延元辰年三月廿四日病死住信家地
葬信家地長恩院新淨意

女子

表守守

大信市之進豊貫妻

母

年同

女子

西丸表守守

以守守守守守守守守守

丹 在口以

信尹

易三平

丹

中藏事

右川四宮在信統

字素

仁人言如生

延享五年四月言父信同那通言

仰付少事信素言信同那通言

宝曆七年二月言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言

同九年四月言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言

信貴

右田政

丹

中藏事

右川四宮在信統

宝保元元年四月言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言

信德

言言言言

丹

右田政

寛延二乙年三月廿五日表出衣筆

以子撫在母門正作表筆子之信也

女

半人

亦及孫希和寄書

母

弟同

信真

母

友部

正藏

石川四郎右衛門信真

明和四亥年八月十九日兄第三和表筆

家成

信真

五郎

家文

十郎信信四郎

家母

家父

石川四郎右衛門信真

書

家父

亦亦甚四郎右衛門

信真之書

明和四亥年八月十九日兄第三和信筆

信真之書 志養子亦能也

同年十月四日表良父証目親之通信筆

信真之書 仰丹不 善信流方馬家女子

家成

同七年四月廿七日西九半人作書
 相平但馬守經國家
 安永元元年二月廿九日宿屋
 取通河津 洪光小菅信合 伊守
 栗田 豊後守 死 少子 後川 務 權 伊
 子 紀 二 三 郎
 天明五乙年一月朔日 當死 甲 二 年
 法皇院 新 三 乙 乙

茂知
 如昔

實父

書信

小本多 念 理 法 誓 力
 西九 表 甲 子

實母

小本 越 有 道 心 律 女
 大坂 藏 守 子

妻

三 枝 友 三 信 威 三 女
 三 枝 友 三 信 威 三 女

白くくお生

天明五乙年一月廿九日宿屋
 友 取 所 信 子 小 茂 知 美 急 卷 子 子 經 也 不
 同 年 九 月 廿 六 日 卷 子 又 以 同 類 之 通 信 伊 守
 少 多 信 川 務 權 伊 守 死 少 子 後 川 務 權 伊
 守 死 伊 守 子 伊 守 子
 天明八申年一月廿九日宿屋 伊 守 入

長南橋津生記

寛政六年二月七日有記
幸人河内長安洋願仕

同七年二月七日有記
新身長門中津生記

同八年二月七日有記
上院射子相和勝後二洋願仕

同九年二月十日
若若橋津生記

同月十日有記

右之通津生記

三下之谷後津生記
生國主藏
若若橋津生記

幸人町

寛政上未年二月

津田嘉吉馬
三十二

未二同別
小治孫書

先祖書

つ 平形
元孫書

平氏
四拾書。切由書

西尾少人
小治孫書
津田少藏

平姓

津田

宗三俊

仇

聖俊

仇

宗國守

九西三

祖師天皇... 後亂... 國任... 津田... 宗國守

信那

津田

宗國守

九西三

母... 信那

初... 信那

宗國守

宗國守... 信那

信凭

宗國守

八西三

母... 信凭

宗國守... 信凭

宗國守... 信凭

宗國守... 信凭

宗國守... 信凭

出小八亥年五月廿九日
天明元五年二月十九日
宗同寺号名多院下甚目心

信明 證物

丹山在荷氏由

明和七年七月廿九日

宗門寺号 遊行院 山田位

證物

母上向

天明七年十一月八日

天明元五年五月朔

天明元五年九月十日

信好

母上向

天明七年七月廿九日

天明元五年五月朔

天明元五年九月十日

天明元五年七月廿九日

天明七年七月廿九日

天明元五年七月廿九日

天明元五年七月廿九日

天明元五年七月廿九日

天明元五年七月廿九日

天明元五年七月廿九日

廿

寛政十年三月廿四日

一冊中根氏

右之通少佐以上

高百春依

寛政十年三月廿四日

寛政十年三月

津田半藏

西

未三月

仙名津屋

系譜

二平中

津田半藏

元禄十二年
新出津屋

仙名津屋

世伝

改

津田半藏

平姓 津田

大國君謙之而高國友平姓以氏仕于毛利家
中國十九年壬午年利元始之長以平姓之宗友也門
有平姓之臣一男以平姓守之祖養子受國之實
有平姓之臣一男以平姓守之祖養子受國之實
上婦子故力奉子孫以平姓守之祖養子受國之實
致有友津田良之平姓守之祖養子受國之實

幕之改 其初之解

幕之改 丑三相

津田良國後了意海軍
甚矣 津田之角

母 甚原常壽信之侍女了意死去

後希長信女中長原信山五原信山
兼信人秋山信右衛門兼女

元禄二年六月廿五日新三官物十人持柄
更任者

其後加百寺儀中
其水六年二月廿七日表任者

其信三年八月廿六日
兼善山田相院号寸平院仁後了矣

津田氏(信)

吉原

兼善山信人秋山信右衛門兼女

其水六年二月廿七日表任者

実母甚后成母

妻 首見又子孫事

延和八年 生後

正徳元年十一月十八日 奉命子孫事 甚后成母

同年十二月廿二日 奉命出給

正徳二年八月廿二日 又死十月十日 江國

正徳元年十一月廿九日 奉命出給

享和元年十一月廿九日 奉命出給

元又四年四月廿九日 奉命出給

信言

實母亦甚后成母 實母亦甚后成母 實母亦甚后成母

百又子孫 信言 實母亦甚后成母

天龍

信言 實母亦甚后成母

實母亦甚后成母 實母亦甚后成母

如新

實母亦甚后成母

丹秋山氏女

玄高

信言 實母亦甚后成母

實母亦甚后成母

實母亦甚后成母

實母亦甚后成母

素右大臣源朝経朝臣之孫正維也

正維二在元年生也

二在元年八月廿五日

正維十二在元年九月廿七日

正維十九在元年十月廿九日

在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

正維二在元年八月廿五日

素業

母板角也

素業 甚尾内也

元又元在元年生也

宝曆七年八月廿五日

宝曆丁巳年八月廿五日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

廿五

廿六

廿七

廿八

廿九

三十

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

房玄 乙子助

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

宝曆十三年四月十日

右ノ通

高百幸儀本國吾門 市名少受屋簿

外郎日當十人住持

未甲子

宣和丁巳未年三月

津田源成所

五

宣和丁巳未年三月

津田源成所

五

未三月十日

紅紙津田源成

系譜

辛卯

武市源七善。津田源成所

出本丸多見

出本

新出本

小笠原氏松浦源成所

津田大源所

平氏

津田

平氏傳云津田之部能定未流

部之役

上羽之蝶仇

部之役

五三之相

部之役

仇

津田之部

信三

尾列岩倉之生

津田信長は少佐の如く相合五年に道身仕

三の如く類田の如く生

室之水丁甲戌年十月朔日病死仕

法名即平院服教因國是寺法海院集

津田仁右衛門

信政

三列額田郡之生

三の如く名寄國之便寄之生

室之水丁乙酉年二月三日病死仕

國語津法院上集号喚津院良之

信全

五虎傳

三子紅額田於生
家承丁四丁生年月、名和藏田氏と
津田と書收出伝
信全入左田十虎傳の終
正保四丁亥年出伝
延宝二甲寅年七月九日高死仕下
治元年庚午大徳院院名存

信休

信全

母

幸小成女

妻

五虎傳

河合氏信信照女

武列書終終生

延宝二甲寅年五月文種通記

伊丹小善法板合市正信入松浦日丸

終生

貞享二丁酉寅年八月水知在

伊丹

元禄七年庚申八月日

本願少重進人國於丹世也
 元禄年中少若列有等道何
 爲後洋願仕人言爲不於
 死仕臣細之
 宝永元甲申年八月十日
 高死年二
 因後流自恩洋中其地口系

女子 冊 年世 在國
 少子 冊 在國

信保

在二部

冊 在國
 書 在國
 或藏國之生

宝永元甲申年十月廿七日
 父願之通
 以仰身小重信保用
 誠前中後古入和系
 信保之生也
 宝永元甲申年十一月
 高富士元宝
 藏書之仰身
 同十九甲宝永年十一月十八日
 高富士元宝

仰牙

寛保二壬戌年四月十日上月里村

御用屋彌五宅宛 仰牙出於

御成元初彦彦 上意於

御成須裁高比河端先河用五和

水彦彦次浪子初拾之及初願比

宝曆二壬辰年十月初四日高死年二

葉院門口号旁志院見性通長

女子

早世

母

蓮澤院殿附原書

長田院在道命家

女子

進書女以上書

山室才助政保書

母

早世

女子

早世

母

弟同

信右

弟信朝

七藏

巳人生

母

弟同

延享四年丁卯年一月廿六日涉多見

在信右 仰牙野村持守鳥根新造兄弟

寛延元戌辰年十一月十九日
拾人持持事

宝曆三年十一月廿四日
又願通

明和九年十一月廿九日
就院仕

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

同九庚子年十二月十二日
沙多見

上三意
沙多見

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

同六丁酉年十一月廿九日
志村在宅

出内者之氏云作付

同四年子年四月廿五日通少右列
有皇道河内氏豊原氏信占神由
今且原河内氏豊原氏信占神由
甲斐所 栲丸領物屋敷此其此也
昌子栲丸内氏信原氏信原氏信原氏
四方未封多云作付云
同五年壬午年七月九日病死之十七
葬比内系号 徳成院有屋及降

中子

豊和

母

宗同

寛延二己丑年二月大奥上云 古出

少原信成云作付

明和六己丑年八月四日云

考恭公少河内氏云作付

豊原氏後利云作付 豊原氏云作付

寛政九己酉年二月廿五日云作付

保常

本

母

右同

重榮

早世

母

重華

早世

母

書

天明元年辛丑年八月廿

後明公 濟國元 御本公

宣政五年壬午年十一月廿八日父彌三郎

御本公 御本公 御本公

同七年二月廿九日御本公御本公御本公

同八丙辰年八月廿九日御本公御本公御本公

同九丁巳年二月廿九日御本公御本公御本公

同十戊午年六月廿九日御本公御本公御本公

同十一己未年二月廿九日御本公御本公御本公

同十二庚申年八月廿九日御本公御本公御本公

重

早世

母

重

早世

母

天明之冬卯年四月小量降從御田
百石五石從以切切助之惠也侍奉子
百石公

女子

母

弟同

家令侍奉
山上五石一石之保奉

女子

母

弟同

寛政五癸卯年十一月廿八日
長男之同也
同七乙卯年十月廿七日

此係作也

女子

母

弟同

少善信從
少及百石成子

女子

母

弟同

室寶

母

弟同

右三通

百石

本國

津浦

寛政上巳未年十月

津田大

三月
渡辺平十郎出

系譜

つ
又之少人
一歩所

平中
武百之落書。切用是事

小善信
津田渡辺之師

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

平氏

津田

先祖津田重盛傳政英平國全德生國山坪
生島之傳子重盛傳人之中中中

第之紋

轉遠

第之紋

仇

第之紋

茶書

政之

又四山

丹書易知

宣政二年五月

神田津田傳信之書於四年表之旨

宣政二年五月 亦從自丹加平儀九字表

延室八申年

桂昌院抄人、以の傳、成信書抄中儀二人持傳

九字儀四口

宣統十二年七月高、九七年

葉上名座石与号、高座院龍卷及号

政房在子之

卷母易知

實文、抄向方、二水、三山、家、二、官

實母易知

書、津田又回所、海、三、母

元禄十一年八月、元禄、子

元禄十一年七月、元禄、文、桂昌院、海、五

宝永二年八月、入、和、年、三、多、以、也

享和十一年三月、四、の、傳、或、傳、也

門下、五、年、三、月、一、日、の、傳、或、傳、也

享保五年三月廿四日
某同寺号后院院法舟合志

廿五

廿六

廿七

母清田氏母

生

享保四年正月廿日

享保五年十月廿日

享保六年六月廿日

享保七年九月廿日

享保八年九月廿日

有德云法舟入十人德勢少所限

享保四年七月廿二日

享保五年六月廿二日

享保六年二月廿二日

享保七年四月廿二日

享保八年六月廿二日

享保九年七月廿二日

享保十年八月廿二日

某同寺号后院院法舟合志

典政

生

某

生

母

生

生

明和七年四月六日之旨
宣旨 在任 十月 入任 川島 氏 氏
宣旨 在任 十月 入任 川島 氏 氏
宣旨 在任 十月 入任 川島 氏 氏

高見 平江府 福徳 福宗 大田 子 子 子 子 子 子 子 子
天明七年 四月 宣旨 宣旨
宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨

如 如 如 如 如 如 如 如
如 如 如 如 如 如 如 如
如 如 如 如 如 如 如 如

宗眼 宗外 宗外 宗外 宗外 宗外 宗外 宗外

右之通 河津 河津 河津 河津 河津 河津 河津

高百 俵 俵 俵 俵 俵 俵 俵
本國 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋
生國 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
演丁 元 元 元 元 元 元 元

宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨
宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨
宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨



Faint, illegible handwritten text on the left page of an open manuscript.

Faint, illegible handwritten text on the right page of an open manuscript. The text is arranged in vertical columns and is significantly faded.

